巻頭言

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-02-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4276

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

巻　頭　言

樟蔭学園創立 100 周年記念号に寄せて

平成 29（2017）年、樟蔭学園は創立 100 周年を迎えた。大学教職員の種々の研究活動の成果の一端を大阪樟蔭女子大学研究紀要として毎年刊行しているが、今回の学園創立記念行事の一環として、研究紀要第 8 巻を創立 100 周年記念号とすることとなった。

樟蔭学園は、大正 6（1917）年に「私立樟蔭高等女学校」として設立された。大学に相当る高等教育機関は「樟蔭女子専門学校」を経て、昭和 24（1949）年に「大阪樟蔭女子大学」が設立され現在に至っている。

大学は研究機関として役割を果たすべく、設立当時に研究論文集である『樟蔭文学』および『樟蔭家政学』を創刊した。その『樟蔭文学』第 1 号において当時の細川馨学長（初代）は「教授不斷の研究と、學生の眞理探究に對する意志と情熱とは、基礎條件といはねばならない」と記し、教授そして学生の学問研究に対する不断の努力こそが大学の基礎であると見解を示している。

今日、大学教育の質的変換が求められている。「教育方法の転換と教員の教育能力の涵養には、研究という営みを理解し実践する教員が、研究の成果に基づき、自らの知識を統合して教育に当たることである」と中央教育審議会の答申（平成 24（2012）年）に記されている。このことは、既に細川学長が指摘していることと同じであり、本学の研究活動の方向性は、取り巻く環境や時代を問わず不変であると確信している。

現在、本学は 3 学部 7 学科体制であり、研究領域は多岐に渡っている。研究の専門性の深化に課題があろうが、逆に分野横断的な研究を進める環境にあると言えよう。今後、ますます急速な社会状況の変化が予想され、「答えのない課題」に最善解を導くことができる能力を有する人材が求められ、この能力を培うには「分野横断的な幅広い知識・俯瞰力」を身につけることが必要であると言われている。この力を養うためには大学教員の研究成果に基づく教育の充実が必要であり、必然的に本研究紀要の充実も求められる。

2 年後の 2019 年、大学は創立 70 周年を迎える。大学教員の研究に対する興味や欲求により自由で自律的な活動の推進を願ってやまない。最後に、創立 100 周年記念号の刊行にあたり、論文執筆者ならびに紀要の編集にたずさわっていただいた編集委員の方々のご努力に謝意を表する次第である。

平成 30 年 1 月 31 日

大阪樟蔭女子大学
学　長　　北　尾　　悟